

“特集号” 就任の挨拶 1 頁 東海教区教区長 2 頁 ディアコニア施設長、社会・奉仕部長

巻頭言

わたしのデンマーク牧場とのかかわり 神様の働き

東海教区教区長
岐阜・大垣教会 牧師 徳弘浩隆

私が、初めて「デンマーク牧場」を訪ねたのは 1991 年。関西の青年会でお邪魔しました。次は 1995 年だったでしょうか。Teens キャンプで会場として使わせて頂き、参加者達と聖書を学び、語り合い、動物の世話をし、牧場でバーベキューをしたりしました。朝動物を小屋から出して牧場に連れていく時に、動かずに止まってしまう、困っている子がいたのも思い出します。文字通り「道草を食って」いて、小さな子どもの力では引っ張っていきことができずに困っていて、そこにいたみんなで大笑いしました。

私が教会事務局にいる頃、東海教区から「福祉村構想」の熱心な申請、協議があり、2003 年に特別養護老人ホーム「ディアコニア」が実現したのを見ました。2009 年にブラジルへ宣教師として行き 10 年。異国で最初は言葉も習慣も違い苦労しました。日系人やブラジル人と教会生活をし、ブラジル人スラム街の教会でも子どもたちに放課後学級や給食を始めました。飲酒や非行、薬物や犯罪に手を染めないよう、音楽やパソコン、英語や日本語を教えました。毎回 30-40 人集まり、楽しく運動や勉強をし、時には怒り、一緒に泣いたり笑ったりしました。

昨年 4 月に帰国。4 月 29 日の「わいわいワーク」で久

しぶりにその地を訪ね、「ディアコニア」、「まきばの家」、「こどもの家」、「こひつじ診療所」と整えられた各施設を感慨深く拝見しました。



Teens キャンプを続ける中で集まったデンマーク牧場、あの頃の中高生は成長し家庭を持った人たちも。中には牧師になった人もいます。その後の参加者で今私の教会の役員をしているお母さんもいます。去年わいわいワークで帰り際にポルトガル語で話しかけてきてくれた方はブラジルから日本に働きに来ていた方で「もうすぐサンパウロに帰るけれど会えて嬉しかった」と話してくれ、強いアブラソ（ハグ）と固い握手をしました。

私は今は教会の牧師の働きに加え、社会福祉法人に学びながら関わっています。また、出会った外国ルーツの子どもたちや、たまに近所の中学生の宿題を見てあげ、外国人向け日本語教室をし、いろんな相談にも乗っています。中には東京やブラジルからも相談があり、インターネットのメッセージやスカイプを使った面談も。

私は高校のころ学校がつまらなくてしばらく行かない時期もありました。大学も期待と違う校風でやめ、「道草を食って」遠回りして牧師になりました。学校に行けなかったり、自分の居場所がなかったり、外国で苦労する人たちの気持ちが少しはわかります。私がつらかった時に、何でも聞いてくれる人がいてくれたらよかったのに、と思うことがあります。だから、自分はそうなるう、何か力になりたいと、声をかけたくくなります。

人生の遠回り、道草も、必ずしも無駄ではなかったんだなと思います。道草を食って、動かなくなったり、立ち止まって座り込んだりしても、神様は私たちを待ち、育て、計画を進めて下さっています。久しぶりに訪ねたデンマーク牧場のたくさんの施設やそこにおられる方々を見ると、人間の小ささとは違う、神様の大きな計画があることを目の当たりにさせられます。もちろん、計画実現のために祈り苦労された方々の信仰と努力があつてのことですが。子どもたちから、ご病気の方、そしてお年寄りも、安心して一緒に泣いたり笑ったりできる場所、人間だけの営みではなくて、大きな愛と計画がある神様がいつも一緒に寄り添ってくれる場所、そんな場所なんだなと思います。

ご挨拶

ディアコニア施設長 牧 摂



2020 年度から施設長という重責を担うことになりました。宜しくお願い申し上げます。

今年の新年度は新型コロナの発生を受け、異様な緊張感と閉塞感の中で迎えました。こんな時はことさら、皆さんからのお祈り、お支えが大きな励ましとなります。マスクなどを送ってくださる方もおられ、この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

今回、新型コロナの発生で「会いたい」けれど会えないことが様々な場面でありました。

「会いたい」理由は人それぞれです。仕事以外で人に会う時の多くは、たわいない会話をし、日頃感じている様々な事を分かち合います。沈んだ気持ちや、不安な気持ちの時も「会いたい」人に会う事で元気を取り戻すきっかけになります。

当施設に入居されている皆さんのなかには会って話をして十分な意思疎通が出来ない入居者様も多くおられます。それでも、面会に来られたご家族は穏やかに元気で過ごされている入居者様のお顔を見れば、言葉は交わせなくても安心し、何かを伝えるべく話しかけ、元気をもらって帰路に着かれます。

当たり前のことですが、入居者様とご家族は、これまでのそれぞれの生活で起こった様々な出来事を、励ましあい、支えあいながら共に乗り越え現在に至っています。だからこそ、たとえ言葉が十分交わせない入居者様であっても、ご家族がお顔を見ただけでも、ほっとできる「会いたい」愛おしい大切な存在となるのではないのでしょうか。

入居者様お一人おひとは、ご家族それぞれの「会いたい」大切な存在です。その生活の手助けを丁寧に行うことがディアコニアの大きな使命であると思います。



これからも「会いたい」大切なお一人おひとりに向き合える施設になれるよう、邁進してまいります。

社会・奉仕部長になって

社会・奉仕部長 芳賀美江



東海教区では社会・奉仕部長はずっと牧師が担当してきました。教区長からの依頼を受けてまず考えたのは信徒で務まるだろうかということでした。

2010 年から福祉村委員になりました。各施設の現状やディアコニア建設時の本教会からの借金の返済についてなど詳しく知ることができました。当時は福祉村委員会に社会・奉仕部長を始め数人の牧師先生がおられ、これまでの歩みや今後の課題など教わることが多くありました。社会・奉仕部長は当然牧師になるものだと思っていただけに青天の霹靂でした。教区長の徳弘先生と話す中で力不足だけれどお役に立てればと思ってお引き受けすることにしました。女性会担当牧師は名古屋めぐみ教会の小澤周平牧師にお願いすることができました。

本教会からの借金も順調にいけば 2023 年には終わります。その後の福祉村委員会のあり方や旧こどもの家の建物の件など課題がありますが委員の皆様と話し合っていきたいと思います。今年は新型コロナウイルス感染症のためわいわいワークや福祉村デイも中止になり残念でした。来年は実施できることを願っています。

デンマーク牧場を初めて訪れたのは静岡にいた大学生の時 1968 年の 8 月、所属していた静岡草深教会の修養会でした。牧場ができて間もない頃で農学校の宿舎（旧こどもの家）に泊まりおいしい食事をいただきました。夕方、広い牧場を散歩し夜は消灯過ぎまで話し合ったのも懐かしいです。

30 数年前に神奈川から静岡に引っ越し、近くの日本福音ルーテル小鹿教会に転会しました。デンマーク牧場にフリースクールがあることを知り職場の企業研修の制度を利用し 1 日体験することができました。旧こどもの家で作業服に着替え 40 年近く前のことを思い出しました。デンマーク牧場とは不思議な縁（神様の導き）で結ばれていたのです。

職員
の声

ディアコニアのいま

介護課長 真野純一



皆様、日々ディアコニアの介護業務に対し、ご支援・ご協力をありがとうございます。私は、4月から介護課長を任せられました真野純一と申します。昨年度までは、フロアの介護主任をさせていただいておりました。様々に起こる出来事や問題に対して、自身の力不足を感じてばかりの日々でしたが、この度、全フロアをまとめていく介護課長という立場を務めるという事で、今まで以上に身が引き締まる思いであります。入居者様にとっても、職員にとっても、どちらにとっても魅力のあるディアコニアになる事ができるように頑張ったいと思っております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

現在、ディアコニアでは、新型コロナウイルスの感染防止対策として、ご家族の皆様へは面会中止と



いう対応を取らせていただいております。ご家族様におかれましては、入居者の皆様の日々の様子を心配されている方も多いと思いますが、感染

を持ち込まない・持ち出さないという考えのもと、我慢をさせていただいております。

5月からは相談員からの提案もあり、入居者の皆様の日々の様子を、介護職員よりご家族様にお届けするようなお便りを始めさせていただきました。介護職員も、少しでも日々の様子をお伝えしていけるようにしていきたいと、介護業務で多忙な中ですが頑張っコメントを作成してくれております。ご家族の皆様が、介護職員からのお便りに楽しく目を通していただけたら嬉しいなと思っております。

入居者の皆様の日々の生活は、ご家族様の面会中止やボランティア活動の中止があり、楽しみが減っ

た生活となってしまっております。しかし日常生活においては、通常と変わらない施設サービスが提供できており、その点では少しホッとする思いも持っております。新型コロナウイルス以外で心配をしておりました、インフルエンザやノロウイルス等の感染症は施設内で発生せず、入居者の皆様にご不便をおかけする事無く冬を乗り切る事ができました。

緊急事態宣言が解除され、新しい生活様式の中で過ごす日常が始まりました。新型コロナウイルスの脅威は消えず、先の見えない状況が続く中ですが、ご家族様の面会制限の解除時期を検討したりできるような状況に、ディアコニアもなれてきております。

焦ることなく、着実に、新しいコロナの時代に対応していく事ができる力を、職員一丸となって付けていきたいと思っております。

今後とも、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



【写真の説明】

ディアコニア玄関に飾られた「いぶき」の羊毛作品。

昨年の4月に開所した就労継続支援事業所「いぶき」に通う皆さんにもディアコニアの働きを助けて頂いております。



福祉村のために、篤いお祈りと貴重な献金を心より感謝申し上げます

「福祉村募金」献金者（敬称略） 2020 年 3 月～2020 年 6 月

個人

小泉小枝[大津市] 内藤文子[小岩] 原 研治[町田市] 廣幸朝子[むさしの] 藤井邦夫・貴子[宇部]
 森部 信・榮子[引退教職] 小野エミコ、西野孝枝、宮崎典子、望月隆延、山本美智代[清水]
 芳賀直哉・美江[小鹿] 池谷益代、伊藤七男・初枝、加藤敏明、宗 美江、杉山雅人、富島裕史
 永井滋乃、原 宏・ふじ子、船城秀樹、宮武晴昭[静岡] 大柴 潔、川村千代江、柏田憲吾・
 篤子、櫻井 隆・國江、杉本光子、沼野寿子、水野喜朗[栄光] 明比輝代彦・史子、鈴木敏雄
 寺嶋豊司・文世[新靈山] 伊藤旭人、和田清子[浜松] 澤田小枝子[挙母] 磯村久市・和子、鯉江
 文子、齋藤幸二、花城裕一郎[知多] 市川 旬、一之瀬彦治・安子、伊藤由紀子、今枝隆久・
 有里子、井森悠子、岩田眞理子、植下眸子、内河恵一・眞知子、大野捷二・比奈子、菊池 敏・
 幸子、ケネス ロビンソン・小坂敦子、小島知永子、坂井茂子、塩田 浩、末竹十大・真木
 雅子、西尾三郎・和子、野間 實、古谷美千留、堀 育美、村松正義・美那子、吉田玲子
 [なごや希望] 石川吏志・美代子、犬飼通之・佐智子、大野信雄・良子、小澤周平・実紀、小原
 春子、神崎 昇・悦子、岸 享子、木村敦子、黒野正信・春枝、白井美枝子、杉浦良一、鈴木
 光治・貴美子、高田弘子、田村辰夫・勝子、鳥飼勝隆・豊子、永津浩哉・睦子、深谷昭治・
 節子、福本壽子、藤田房子、藤原 薫、宗像昭彦・玲子、安井則夫・芳子[名古屋めぐみ] 浅井道子
 生駒順子、稲垣八重子、甲斐亜希、勝田周子、西尾年子、徳光里明・聖喜、中村瑞代、奈良部
 恒平、長谷川善造、古川のぞみ、松宮ひびき、松宮洋子、安田久夫・チヨ子、山下裕子[高蔵寺]
 小川佳代子、小田博久・泉、神辺泰子、河村満恵、坂元のぶ江、佐藤祥一、宮崎朋子[岐阜]
 秋田明子、大場弘子、岡田敦子、小坂恵子、齋藤幸二・末理子、柴田るみ子、鈴木輝一郎
 田口道治・和子、千田知栄 [大垣] 匿名 (1 名)

団体

富士教会、浜松教会、挙母ルーテル幼稚園、知多教会、岐阜教会

福祉村募金振込先（郵便局） 口座番号 00800-2-98186 福祉村委員会

2020 年度上半期 福祉村募金実績

月	個人	件数	団体	件数	月度計	月度累計	月度支出	現在高
2019年度末						151,293		151,293
1月	175,000	39	73,100	4	248,100	399,393	1,319	398,074
2月	95,500	35	5,930	1	101,430	500,823	355	499,149
3月	94,500	30	43,350	2	137,850	638,673	558	636,441
4月	105,000	37	2,597	1	107,597	746,270	1,116	742,922
5月	101,000	16	0	0	101,000	847,270	355	843,567
6月	423,820	77	10,003	1	433,823	1,281,093	1,279	1,276,111

編集後記 新型コロナウイルス感染症によりわいわいワークやグリーンズフェアは中止になりました。ディアコニアの入居者の皆様もご家族に会えず寂しい日々だったことと思います。牧場に入れず売店もお休みでした。6月に入りデイサービスの再開やディアコニアの訪問、牧場の売店も再開できるようになりました。感染がこれ以上広がらず終息に向かうことを祈っています。(H)